

## ユズ苗のポット大苗養成で早期結実・収量アップ！

### 【1 成果の概要】

陸前高田市では地域のユズを「北限のゆず」として産地化・ブランド化する取組が見られており、ユズ苗木の新植を進めています。結実までには3~4年以上の年数を要します。そこで、ユズの早期の生産量増加を図るため、苗のポット養成技術（高知県開発）を導入し、生育向上および早期結実効果を明らかにしました。

- (1) ポット養成は、1年生苗を用い、図1のとおり行います。
- (2) ビニールハウス内で1年間ポット養成することにより、地植苗（ポット養成を行わずに定植）と比較し、新梢伸長が2倍以上増大します（図2）。また、定植後の樹体生育も地植苗より優れます（樹齢5年生時点で、樹齢6年生の地植苗と同等の生育）。
- (3) ポット養成苗は、定植2年目から結実が見られ、定植3年目の収量は地植苗の約5倍となり、初期収量が増加します（図3）。

#### ○ポット

25Lポリポット

#### ○培土

育苗用培土（スーパーミックスA）、バーク堆肥、パーライトを等量混和

#### ○肥料

肥効調節型肥料（スーパーエコロング（140日タイプ）等）を植え付け時に培土表面に施用。  
施肥量は1ポット当り、窒素成分で10gとする。



（鉢上げ後の管理）

- ・苗木は接ぎ木部から30cm程度上の部分で切り返す。
- ・切り返した部位の下部から伸長する強めの新梢3~4本を主枝候補枝として育成する。
- ・接ぎ木部は埋め込まず、少し地表面に出るようにする。

図1 ポット養成苗の作成方法



図2 ポット養成苗（左）と地植苗（右）  
（1年養成後）

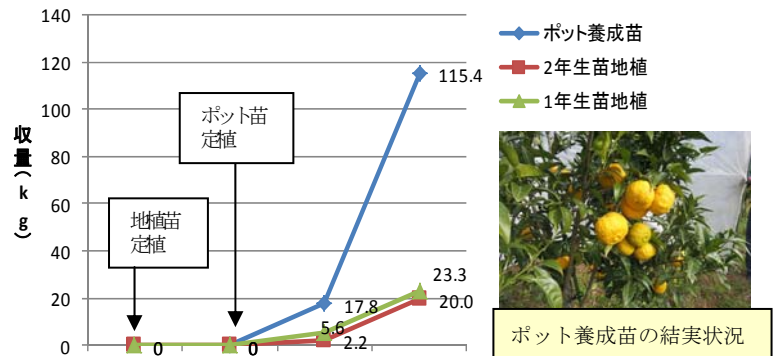


図3 ポット養成苗と地植苗の単収比較  
（3m×3m 植え、111本/10aとして計算）

### 【2 留意事項】

- (1) ポット養成時は、土が乾燥しやすいので、定期的にかん水を実施します。また、ハダニやミカンハマグリガなどの害虫が発生しやすくなるので、防除を徹底します。
- (2) ポット養成苗の定植時期は、3月下旬~4月中旬頃（発芽前）とします。発芽後に移植すると、著しく生育が劣るため、注意します。
- (3) 定植後は樹体生育を促進するため、株元の根の伸長部分に窒素成分で20~30g程度の施肥を5月~10月まで毎月1回実施します。

※本研究は、農林水産省「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」採択課題「ブランド化を促進する果実等の生産・加工技術の実証研究」に基づいて実施されました。

担当研究室 技術部 果樹研究室

〒024-0003 岩手県北上市成田 20-1

TEL. 0197-68-4419 FAX. 0197-71-1083